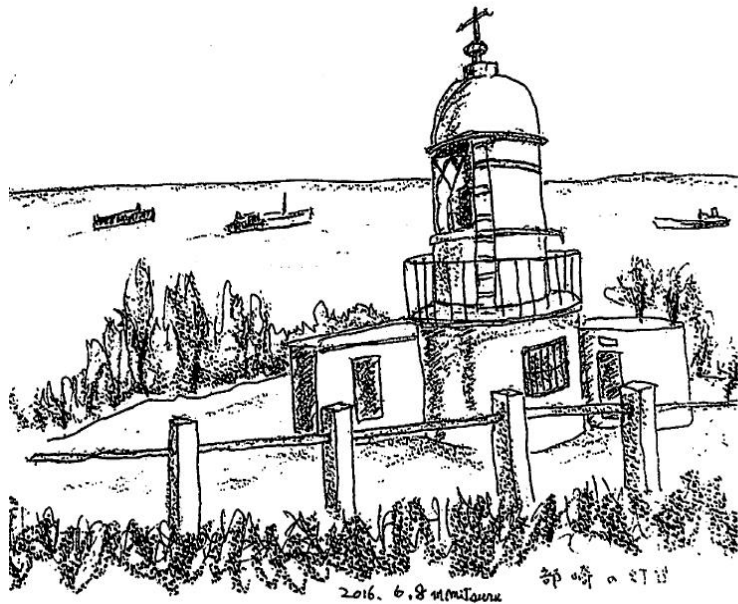


# 週報2022年5月22日



## 2022年教会標語聖句

起きよ。光を放て。あなたの光が来て、  
 主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

イザヤ書60章1節

シオン教会信仰指標～人生が変わる！御言葉の光に照らされて～

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

**北九州シオン教会**

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



# 礼拝順序 2022年5月22日

ピアノ：赤松姉 オルガン：力丸勝子師

司会：大熊姉 献身の祈り：永江姉 メッセージ：力丸嗣夫師

開会の祈り		司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和	
賛美	新聖歌 22「御神の愛をば」	
祈 禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*	
献身の祈り		永江 姉
賛美	新聖歌 166「威光・尊厳・栄誉」	
賛美	コーラス 36「土の器」	
聖書朗読	ヨハネによる福音書 1章 1～5、9～14 節	
説 教	「世の光」	
祈 禱	恵の感謝と応答の祈り	
頌 栄	「主の祈り」	
祈 禱		力丸 師

## 交わりの三省

- \*互いに愛し合っていますか
- \*互いに赦し合っていますか
- \*互いに祈り合っていますか

## 『世の光』

ヨハネによる福音書 1章1節～5節・9節～14節



### 1973年11月開通

本州と九州とは、この橋と、鉄道トンネルと、国道トンネルの三本の動脈でつながり、北九州と下関とは、一体となって、県をまたいだ一つの市にしよう…言う構想まであるくらいです。現在は、トンネルも、関門橋も、時期によっては、酷い渋滞が生じると、下関(山口県)と、北九州とを結ぶ拠点があまりにも、経済の中心から遠いので、小倉に直接アクセスできる第二の長大橋建設(彦島⇒小倉北区)の調査が始まっています。

今日のメッセージは、主イエス・キリストが、十字架の贖いの死で、罪の世界に隔絶された人々を、永遠の御国に繋ぐために来られた…と言う、永遠とこの世界を結ぶ、永遠の架け橋のメッセージです。

交わり	①	互いに愛し合っていますか
の	②	互いに赦しあっていますか
三省	③	互いに祈りあっていますか

## 『世の光』

ヨハネによる福音書 1章1節～5節・9節～14節

- 1節： 初めに、ことばがあった。ことばは神と共にあった。ことばは神であった。
- 2節： この方は、初めに神とともにあった。
- 3節： すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。
- 4節： この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。
- 5節： 光はやみの中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

\*\*\*\*\*

- 9節： すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。
- 10節： この方はもともと世におられ、世はこの方によって造られたのに世はこの方を知らなかった。
- 11節： この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。
- 12節： しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。
- 13節： この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。
- 14節： ことばは人となって私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもともとから来られたひとり子としての栄光である。この方はめぐみとまことに満ちておられた。

まるで旧約聖書の冒頭のような、重厚な書き始めですね。この一節から、ヨハネが、イエス・キリスト様をどのような視点から記録しようとしたかが伺われます。

## 《初めに、“ことば＝ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”があった》

初めに、“ことば”があった。

“ことば”は神と共にあった。

“ことば”は神であった。

“ことば”と、翻訳されている意味は、日本語の「ことば＝言語・話し言葉」という、狭い意味の表現力しかないものになっています。しかし、聖書の原語は“ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”「ロゴス」という古代ギリシャ語です。このギリシャ語を、殆どの国の聖書翻訳で、結果的に“言葉”と訳されています。もちろん、各国言葉で、日本語でいう“ことば”という同じ意味ではあっても、そこに含まれる内容は、国、人種・文化・歴史・習慣…によって、「意味はずい分違っているのですが、基本的には、“ことば”なのです。

言語というものは、時代をさかのぼると、語彙が少なくなっていくものです。その理由は、意思を伝える…という役割が、時代が進むにしたがって、言葉の持つ意味を新しい言葉が生まれて表現されるので、ひとつの単語で表現される意味が、次第に狭くなってきているのです。ですから、「はじめに言葉があった！」と、今私たちがそのまま読むと、ピンとこないのです。

そこで、お話に入る前に、新約聖書原典で使われている古代ギリシャ語の“ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”という言葉の意味を、少し解説しておきましょう。この言葉即ち、“ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”は四つの意味を持っています。

①『言葉』 ②『意志』 ③『力』 ④『業』

すなわち、『初めに“ことば”があった』と記録された時、上記の四つの意味を包括して、語られている…ということです。ですからその後翻訳する時に、“言葉”と、漢字で表記せずに、敢えて“ことば”と、仮名で表記することにしたのです。漢字の“言葉”は、話す言語として発せられるものに、限定されやすいからです。

旧約聖書の創世記1章3節に、『そのとき、神が、“光よ。あれ。”と仰せられた。すると光ができた。』この“仰せられた”という言葉こそ、

先に記した四つの意味を含んだ“ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”だったのです。

神が仰せられる…“お語りになる…”その中には、①“言語”として発せられる。②それは神の永遠の“意思”であり。③それは“力”に満ち溢れていた。④それは無から有を生み出す“業”であったと言うことです。

今一つ、皆さんにお伝えしたいことは、多くの聖書翻訳が、“ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”を、“言葉・ことば”と翻訳している中で、中国語の聖書は、独特の訳をしています。それは、“道＝タウ”と訳しているのです。中国語で“道”という言葉の指し示す意味は、《唯一の真理》という意味です。

ヨハネは、14章6節で『わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』とおっしゃっています。正にご自身から、“ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”の持つ意味を、教え示されたのです。

ヨハネ福音書の冒頭で、ヨハネは、これから記録しようとするお方について、まず最初に、このお方“イエス・キリスト”が、どのようなお方であるか…？ ということを紹介する言葉として、この1節の言葉を選んだのです。\*『“ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”は神とともにあった』 \*『“ $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$ ”は神であった』 “神とともにあった”は、三位一体の“子なる神”を指示しているのです。“神であった”は、父なる神(創造者なる神)と、一体であることを示しています。

## 《遣わされるお方》

さて、2節に入ると、「この方は、初めに神とともにおられた。」と、ヨハネは独自の紹介文を展開するのです。この説明文は、やがて、このお方が、父のみもとを離れて、重大な使命のために、人間の世界に遣わされる…という、秘められた神の御計画を暗示する言葉なのです。

このお方が、神とともにおられた…ということは、神であった!という事でもあるのです。そして“神とともにおられた”お方が、3節には、「全

てのものは、このお方によって造られた。造られたもので、このお方によらずにできたものは一つもない。」驚きの紹介です。なんと、このお方は世界創造の中心におられた…ということです。“父なる神”は、創造の主権者あり、父なる神の前で御計画に沿って、創造される全ての御業を、このお方が、なされた…ということなのです。すなわち、全ての物の創造に関わられたのは、父なる神から遣わされた、子なる神(御子=イエス・キリスト)なのです。イエス・キリスト様もまた、天地万有の創造者である…と言うことなのです。すなわち、あなたが信じ・お慕いするお方は、天地万有の創造者だ…ということです。

### 《いのちと光なるお方》

“いのちと光”これは、神ご自身であり、神の代名詞でもあります。

《いのち=光》このように思いを巡らせると、私たちが信じているお方は、何と素晴らしい方でしょう。魂が躍動してきませんか。心が暗くなっている時、思いが混乱している時、道が見えなくなっている時、父の身元から遣わされたこのお方を見上げましょう。

その人は… \* 父のみもとに近づくことができるのです。 \* 光の中に迎えられるのです。 \* 永遠のいのちへの道が見えるようになるのです。それが私たちの、福音であり、信仰なのです。

§ 試練が何でしょう～主が訓練して下さっているのです。置き去りになることはありません。

§ 迫害が何でしょう～主なる神があなたの味方なのです。ですから、殉教者たちが、逍遥として、天に凱旋したのは、命と光の主が伴におられたからです。

§ 孤独が何でしょう～人は離れても、主なる神は、いつもあなたとともににおられるのです。

§ 困難が何でしょう～共に歩んでくださるお方がおられるので、知恵が与えられ、慰められ、勇気が与えられ、平安が心を支配して下さるのです。

12節: このお方(イエス・キリスト)を、受け入れた人、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。  
13節: この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってではなく、ただ、神によって生まれたのである。

### 《ことば“λογος”は人となって、私たちの間に住まわれた。》

ここまで来て、“λογος”が、御子イエス・キリスト様なのだ！と、明確に示唆されてくるのです。私たちの間に住まわれた！

私達が切実な願いを祈る時、「イエス様！早く来てください!!」「霊霊に満たしてください～い！」この様な祈りを奉げることが多いのではないのでしょうか。まるで、遠い御国においてになるイエス様に、呼びかけるような祈りを…

旧約時代の祈り(詩篇46篇)に

『神はわれらの避け所、また力。

苦しむときそこにある助け。

それゆえわれらは恐れない。

来て、主のみわざを見よ。

やめよ!(静まって!)

わたしこそ神であることを知れ。

わたしは国々の間で崇められ、…

神は遠くにおられるのではない。創造されたお方は、創造した全ての者と伴におられるのです。

ヨハネが、福音書の冒頭に語り掛けたのは、このお方が、私達の間、歩まれるお方として、臨在の主として、あなたの傍に・何時も・伴におられる…ということ、を、まず最初に、示したのです。